

□ 中国の地域別にみた食の特徴

- ・ 小麦、とうもろこしの生産が多い北方では、饅頭や餃子等の「麺食」(小麦粉で作った食品の総称)を、インディカ米の生産が多い南方では、ご飯やビーフン等を主食とし、沿岸部では魚料理が多い。
- ・ 基本的に、食事に関して宗教上の制約がないことから、料理と食品の種類は多彩であり、四大料理のほか、多くの地方料理がある。

四川料理

穀倉地帯の四川盆地を中心に発展し、色、香、味、形を重視する。周りには海がないので、乾燥食品が多い。味は辛く、豆板醤や肉、長ネギ、しょうがをよく使う。麻婆豆腐や棒棒鶏、回鍋肉、担々麺などが代表的。

広東料理

広州を中心に発展。新鮮な魚介類の素材を生かした淡白な味付けが多いが、こってりとした肉料理もある。フカヒレ、ツバメの巣、飲茶、酢豚などが代表的。



北京料理

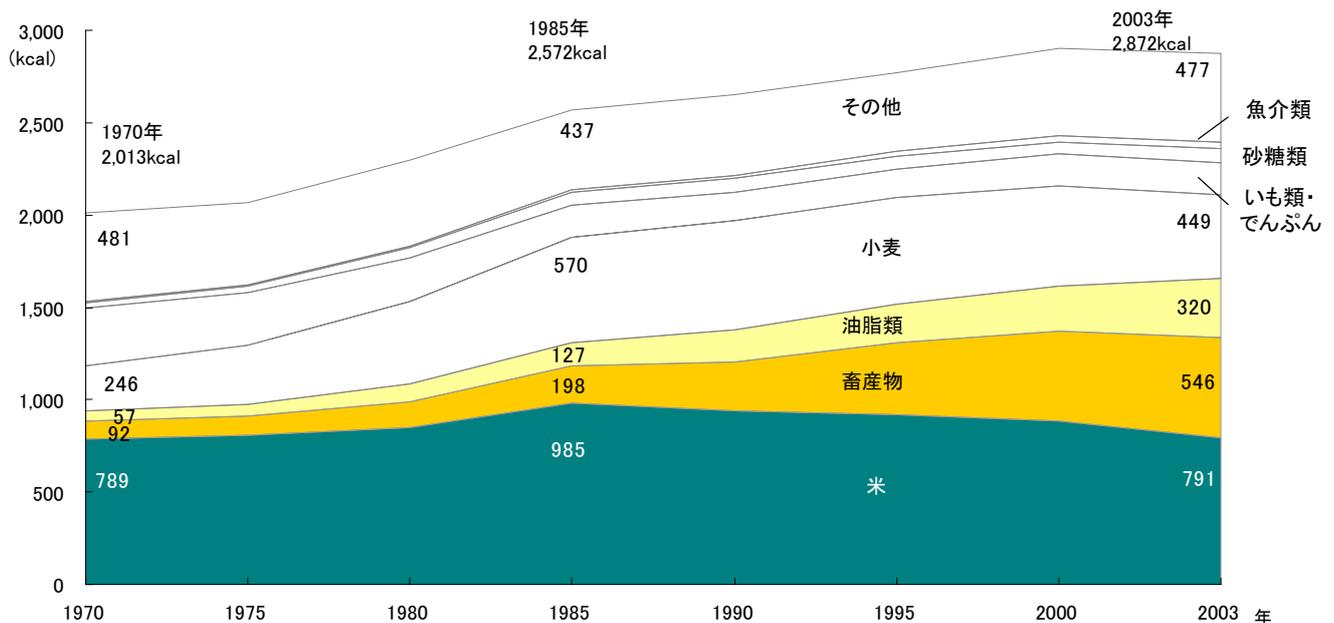
北京を中心に山東省、河北省、山西省で発展。小麦で作られた饅頭、包子などが栄え、魚よりも肉料理が発達。水餃子、北京ダック、中国風しゃぶしゃぶ等が代表的。

上海料理

揚子江下流地域で発展。揚子江の豊富な水を利用して作られた米などの穀物や黒酢を多く利用し、湖沼や海で採れる新鮮な魚介類をふんだんに使った料理。上海蟹が代表的。

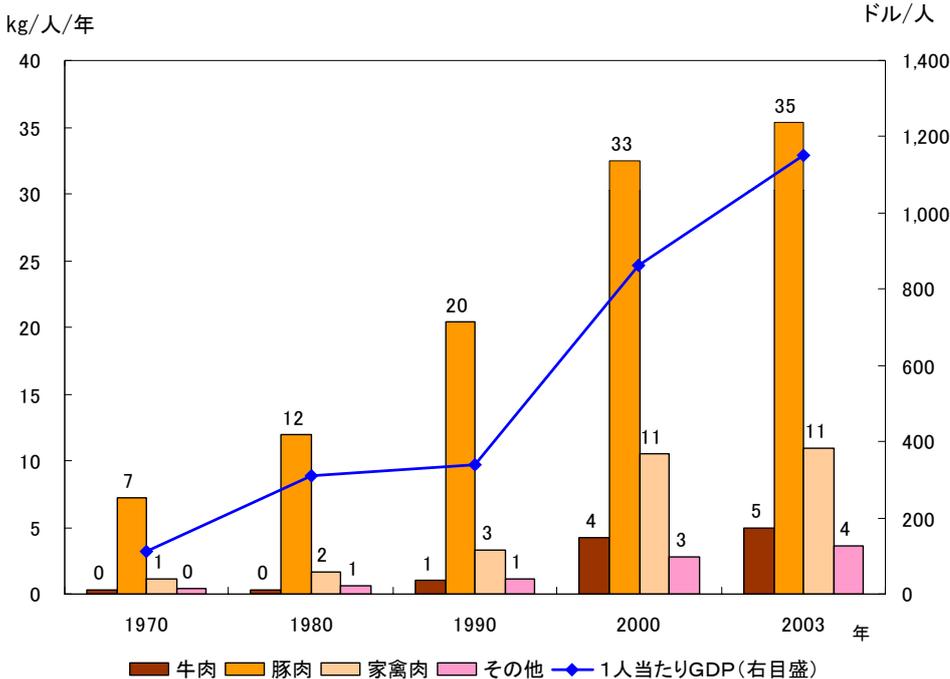
資料:農林水産省調べ

□ 中国における1人1日当たり供給熱量の構成の推移



資料:FAO「Food Balance Sheets」

□ 中国の所得水準と畜産物の需要の推移



資料:需要量はFAO「Food Balance Sheets」、1人当たりGDPはUN Statistics Division

□ ファストフード、コンビニの出店

・ 中国の人々は、経済発展に伴い異国人との交流が活発化する中、宗教的な制約などもないことから異国の食味を排斥せず、各国風味のレストランやハンバーガー、フライドチキンなどの店舗やコンビニが多数出店している。

■ 中国での各社の出店数 (2006~07年現在)

会社名	店舗数(約)
マクドナルド	760
ケンタッキーフライドチキン	1,700
吉野家	97
セブンイレブン	1,105
ローソン	281

資料:農林水産省調べ

□ 中国の人口の推移

単位:億人

1970年	1980	1990	2000	2005	2005/1970
8.3	10.0	11.5	12.7	13.1	1.6倍

資料:UN「World Population Prospects: The 2006 Revision」

□ 中国の食料需要量の推移

単位:kg/年/人

	1993年	2003
肉類	33.5	54.8
鶏卵	9.1	18.3
大豆油	1.1	5.2
野菜	128.0	270.5
果実	24.2	49.7
精米	93.2	78.5

資料:FAO「FAOSTAT」

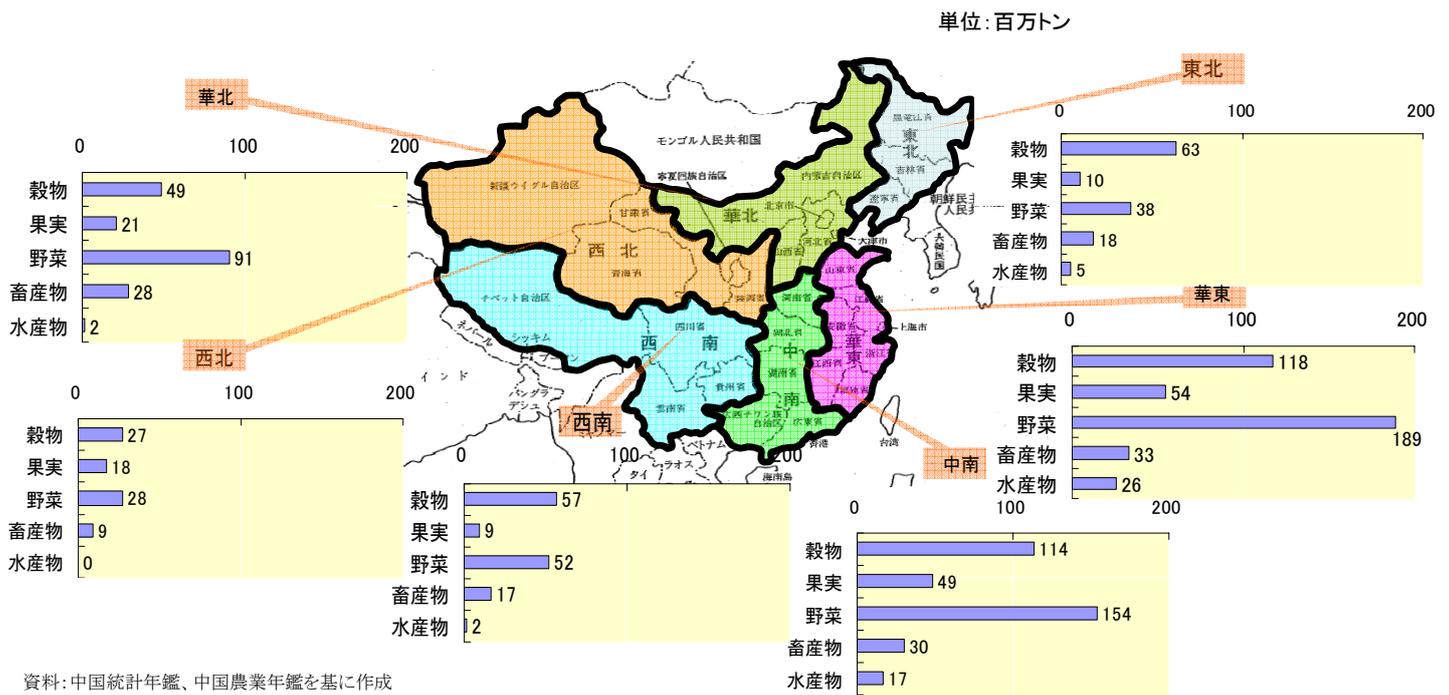
□ 中国の穀物需要量

単位:百万トン

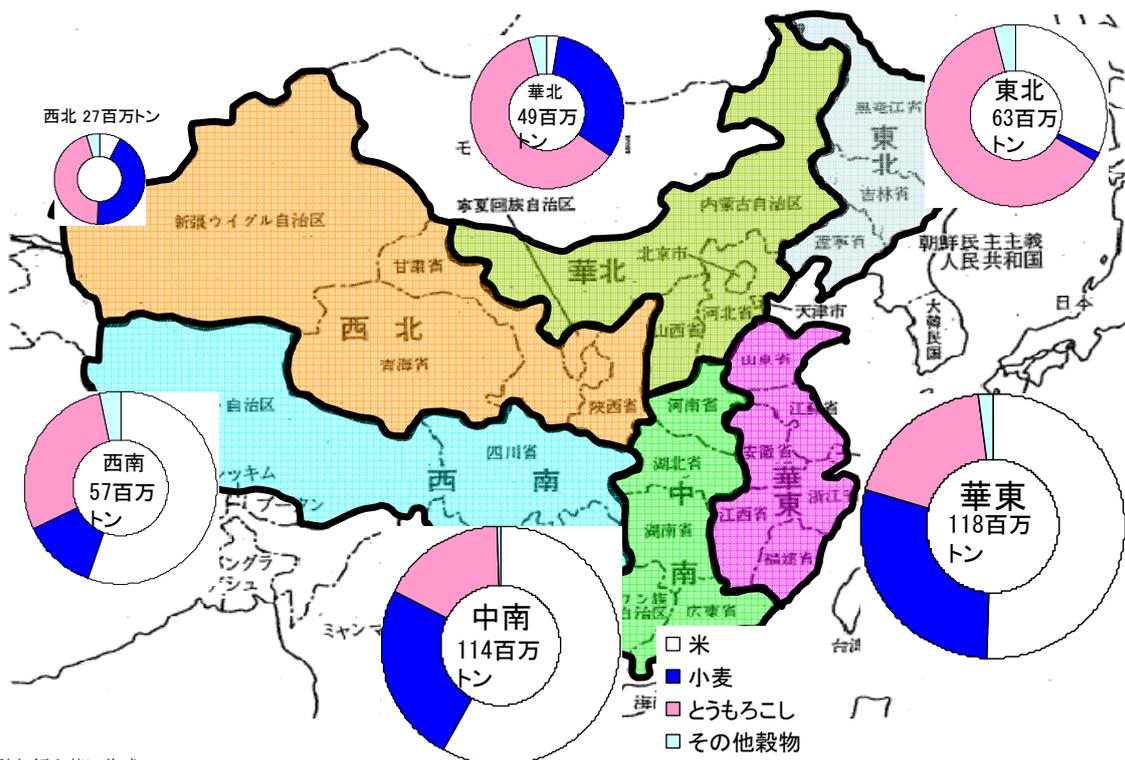
	1970年	1980	1990	2000	2005	2005/1970
穀物需要量	156	254	322	375	376	2倍
うち飼料用	12	34	61	104	107	9倍

資料:USDA「PS&D」

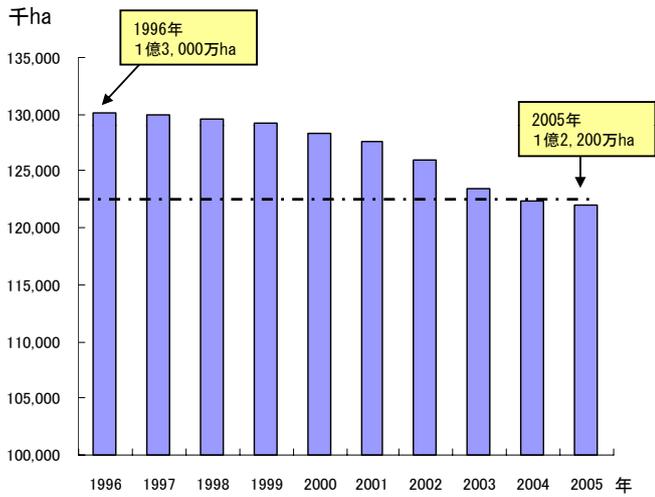
□ 中国の農・水産業の概況(2004年)



□ 中国の穀物生産量(2004年)

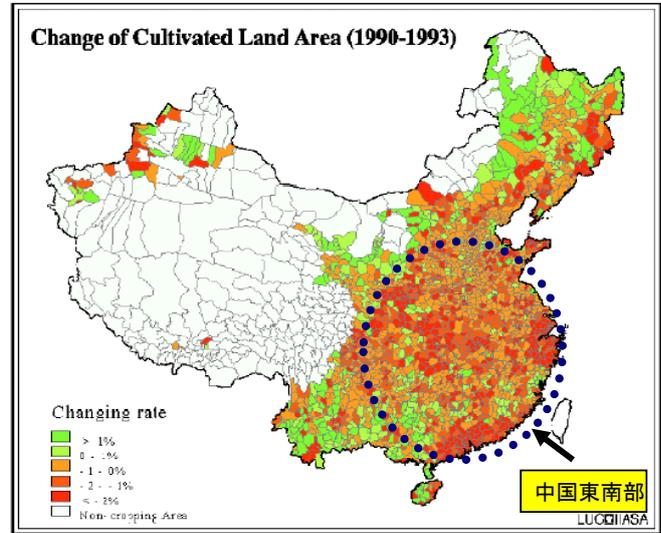


□ 中国の農地面積の推移



資料: 中国農業部「中国農業発展報告」
 注: 2ページに掲載した農用地面積(2003年: 1億5,500万ha)は、永年作物地(約1,200万ha)を含んでいること、調査主体がFAOとなっていることから、上記の農地面積とは異なる。

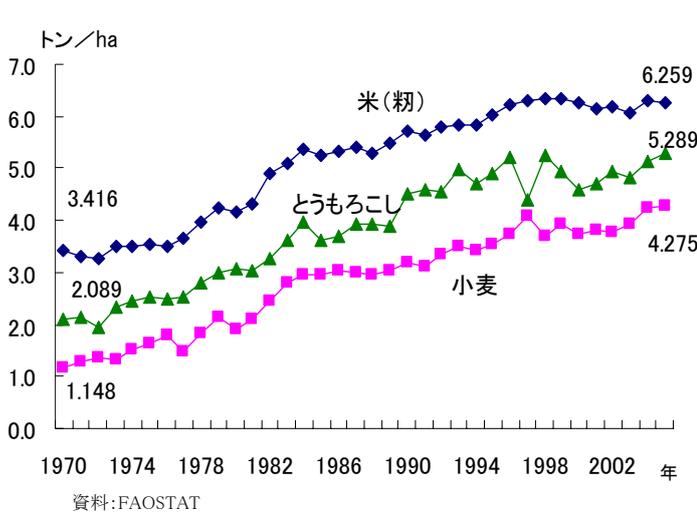
□ 中国の農地面積の地域別変化



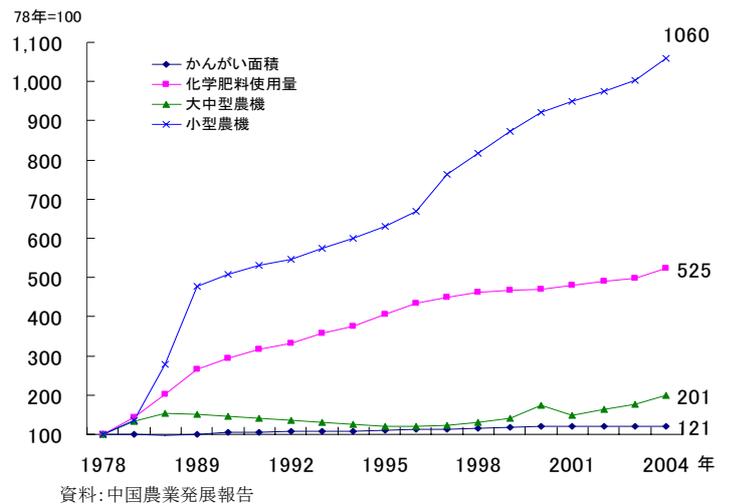
(赤部分は2%超減、緑部分は1%超増を表す)

資料: IIASA「Driving Forces of Arable Land Conversion in China」

□ 穀物の単収の推移



□ 生産要素の投入状況

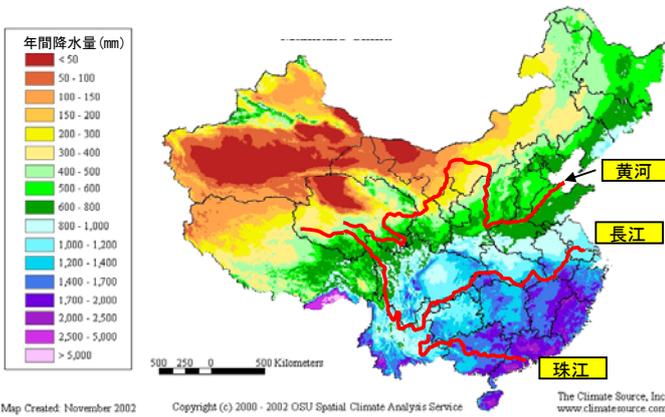


□ 穀物の単収の伸び(年率)

	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代
小麦	2.6%	→ 2.8%	→ 1.1%	→ ▲0.2%
米	5.8%	→ 4.3%	→ 2.1%	→ 2.0%

□ 中国の年間降水量と三大河川

□ 黄河の断流の状況 (2000年以降、断流は発生していない)



	断流出現頻度	平均断流長	断流開始時期	平均断流日数
70年代	10年に6度	135km	5, 6月	14日
80年代	10年に7度	179km	5, 6月	15日
90年代	9年に8度	400km	2月	103日
95年		683km	3月	122日
96年		700km	2月	133日
97年		700km	2月初旬	226日
98年		700km	次年度	142日
99年		278km		42日

資料: (財)日本水土総合研究所資料(原データは黄河水利委員会資料等)

資料: The Climate Source Incホームページを基に作成
注: 降水量は、1961年から1990年の平均

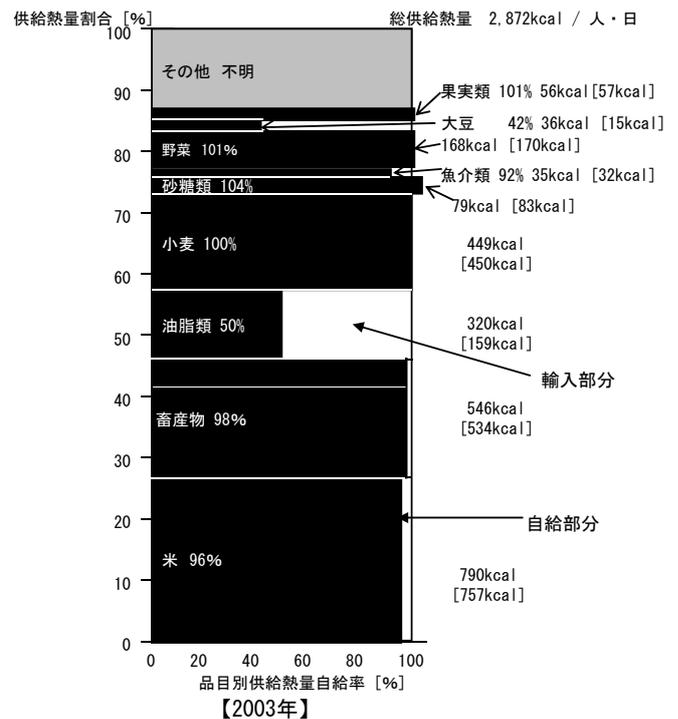
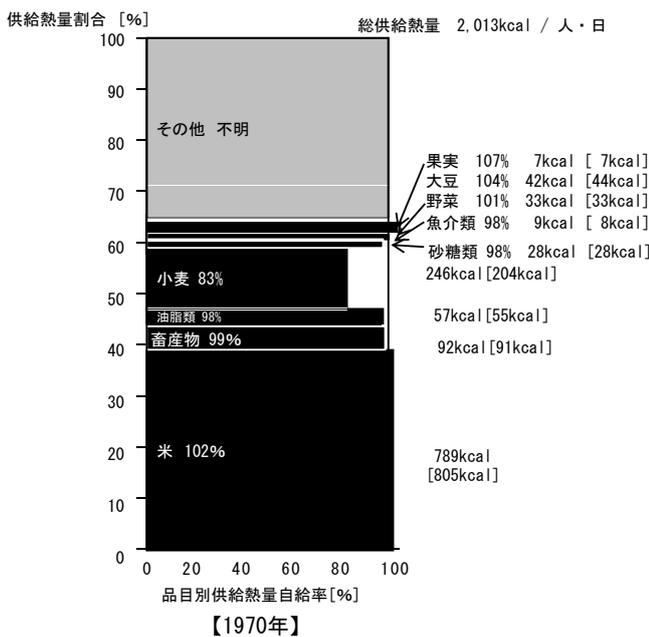
□ 中国における水需要

単位: 10億m³

	合計	うち農業用	うち工業用	うち都市用
1980	444	370	46	6.8
1997	557	392	112	25
2002	550	374	114	32
02/80	+24%	+1%	+148%	+371%

資料: 世界銀行資料

□ 供給熱量の構成の変化と品目別自給率



資料: FAO「Food Balance Sheets」

注: 供給熱量総合食料自給率の算定にあたって、飼料自給率を100%と仮定したこと、また、加工仕向量を一定の前提をおいて計算していることから、我が国の図と直接比較することは出来ない。